

韓国の大学における日本学関連科目と「日流」

片 茂 鎮*

目 次

はじめに

1. 韓国の大学における日本研究
2. 日本学関連科目の実態と分析
 - 2.1. 対象のカリキュラムと調査方法
 - 2.2. 系列別日本学関連科目
3. 専攻としての日本語と「日流」

まとめ

はじめに

「韓流」(ハンリュウまたはカンリュウ、Korean wave)とは東アジアでのポップミュージック、映画、ドラマなどの韓国大衆文化の流行という用語である。日本においては、2002年前後に「冬のソナタ」が女性の一部世代(主に50代)を中心に流行(冬ソナ現象)したことをきっかけに、その後、韓国ドラマや映画など芸能一般に拡大した。1) 一方「韓国

* 檀国大学校 教授 日本語学

1) ≪はてなダイアリ≫(<http://d.hatena.ne.jp>)参照。

なお、フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』には「韓流」について以下のように詳しく説明されている。

1997年アジア通貨危機頃から始まった文化輸出を旨とする韓国の国策を背景に、2000年前後から韓国ドラマが東アジアの国々で放送されるようになり、韓国の俳優や、韓国文化全般に対する人気が高まってブームが形成された。この現象が台湾で「韓流熱風」と言い表され、その後中国や日本でも使われるようになった。この言葉は韓国に逆輸入された。・・・しかし、日本では「韓国映

では、韓流に対応する日本の大衆文化の流行を指す言葉として「日流」(イルリュ、일류)がある。この「日流」という言葉が韓国で市民権を得たのはごく最近のことで、この語は2004年の国立国語院の‘新語’資料集に「日本文化の人氣が非常に高くなる気運や勢い」の意味として収録された。²⁾しかしこの日流の傾向は、ただそれが少数のマニア層に限定され表に現れなかっただけのことで、韓国において「日流」はずっと以前からあったとも言われる。本稿では、その「日流」の根本たる日本文化への関心が韓国の大学における日本関連カリキュラムにどのように反映されているかを調べることにより、韓国における「日流」の一面について考えてみたい。

1. 韓国の大学における日本研究

韓国における日本研究は、1965年の韓日国交正常化に伴い、4年制大学を中心に始まった。日本関連研究は70年代以降本格化するのだが、90年代までは主に語文学中心だったのが90年代からは地域学としての日本学科が登場することにより、韓国における日本研究が一段と成長することになる。2003年当時の4年制大学の日本関連学科は約100個で、それらの学科名変化の推移を示す表を李炳魯(2003: 346)から引用しておく。

<表1> 日本関連学科の名称と設立年度

設立年度	日語 日文	日本語	日本学	日語 教育	日語 日本学	観光日 語通訳	観光 日語	日本語 情報	計
60年代	1	1							2
70年代	12	1	1	6					20
80年代	22	5	1	1	2				31
90-94	5	4	2						11
95-99	6	12	12		3	1	1	1	36
合計	46	23	16	7	5	1	1	1	100

この表から見ると、90年代以降は既存の日語日文学科の数が減り、その代わり日本語科と日本学科が大幅に増えたことがわかる。とくに地域学を勉強する日本学科が14の大学に新設されている。90年代以降、語文学中心の日本研究から抜き出て地域学としての日本学

画・ドラマは一部のおばさんのもの」という意識が定着し、またブームによってタレントのギャラ、放映権などが急騰したため、韓国ブームと称するものは2005年頃から急速に衰退していった。

2) 中国においては「韓流」が始まる前にすでに香港の芸能人たちの人氣が盛り上がっていたし、続いて「日流」が一時流行した(毎日経済、2001. 9. 25)。

科が登場した背景について、李炳魯(2003：350参照)は大体次のように分析している。

- (1) 日本をより客観的に理解しようとする韓国社会の変化。
- (2) 一方的な言語文学中心の研究に対する反発として、語文学を研究するためには必然的にその歴史的背景や社会的現象を知るべきだという認識。
- (3) 教育部が強く押し進めた受容者中心の学部制。
- (4) 日本大衆文化の開放。

とくに、(4) の3次にわたって行われた日本大衆文化の開放は韓国の学生たちに一層日本の文化や歴史などに興味を持たせたことになるのであろうが、この「日本大衆文化の開放」が当面の課題としての「日流」と関連が深いのではないと思われる。

次にカリキュラムについて考えてみる。4年制大学の日本関連学科に設けられた教育内容を扱った最近の調査は朴舜愛(2005)「韓国における日本関連学科とカリキュラム」が参考になると思う。1994年度のデータは、韓国日語日文学会(1994)「韓国の日本語教育実態調査」の中から46校の資料を用い、2004年度のは93学の学科名と33校の科目名を分析して10年間の変化の推移を読み取ろうとしたものである。(表上の数字は、各科目の単位数を3時間にして合計を出し、全体の教育時間に対してそれぞれの項目の学習する時間の割合を算出したものである)

<表2> 1994年度/2004年度学科別教育内容 (上段:1994年、下段:2004年)

学科系列	言語能力	日本文学	日本語学	日本語教育	日本事情	言語能力日本事情 ³⁾
観光学系	68.97	8.28	16.55	0	6.21	0
	72.30	2.60	3.80	0	11.69	2.60
日語日文学系	46.03	27.77	13.17	1.01	5.32	0.53
	52.60	15.65	12.10	3.02	11.67	6.13
言語文化系	0	0	0	0	0	0
	49.60	10.89	12.10	2.44	20.97	2.42
日語教育系	52.19	20.09	12.24	5.08	7.62	2.77
	32.79	19.67	0	55.00	14.75	14.75
日文学系	57.73	27.84	13.92	0	43.30	1.03
	43.68	7.88	0.72	0	43.44	2.86

この表から特記すべき点は大体次の3点になると思う。それは、1994年度に比べて、

- (1) 言語文化系の躍進。
- (2) 日語日文学系の日文学科目が減り、それが日本事情と言語能力・日本事情

3) 「日本事情・言語能力」は新聞読解、視聴覚日本語、日本語コミュニケーションなどのように日本語言語能力を育成しながら同時に日本事情についての学習も可能としたもの。(朴舜愛2005:114)

の時間に回されたこと。

(3) 全系列にわたって日本事情と言語能力・日本事情の科目数が増えたことであろう。ここで「言語文化系」というのは文化理解に関する学科名を使っているものとして、新設された日本語文化と日語日本文化専攻の2つのみの学科におけるデータである。なお「日本事情」とは日本文化、比較文化、歴史、政治、経済、韓日関係史、民俗学的内容の教育を目的としているものであるというので(朴舜愛2005:113)、2000年度に入っては全般的に日本文化や日本学の科目が増えることが時代の風潮と言える。ここで当面の課題は(2)の問題、つまり、これまで韓国における日本研究の中心的役割を担ってきたとも言うべき日語日文学系の学科において、日本学関連科目がどのように取り入れられているかを調べることによって、それを「日流」との関連性から考えてみたい。

2. 日本学関連科目の実態と分析

2007年現在、国・公立大学46校、私立大学178校の総224校(サイバー大学16校は除く)のうち、インターネット上で検索可能な、90校91個の日本語関連学科のカリキュラムを調べた。4) 各学科においてどのような日本学の関連科目が教えられているかを調査・分析してその特徴と背景たるものを「日流」と結びつけて考えてみたい。(1999年3月時点での日本関連学科は4年制大学187校のうち96個大学に128個学科。cf. jinurani.com.ne.kr)

2.1. 対象のカリキュラムと調査方法

(1) 調査の対象とする学科のカリキュラムは以下のように5つに系列に分けて分析する。

- 1) 日本語文学科系列 : 62個⁵⁾
- 2) 日本語教育科系列 : 4個
- 3) 観光日本語科系列 : 2個
- 4) 日本学科系列 : 13個⁶⁾
- 5) 日語日本学科・日語日本文化学科系列 : 10個⁷⁾

(2) 調査は大体次のような基準に基づいて分類した資料を扱う。

- 1) 昼夜間は無視して、地方のキャンパスは別個に数える。
- 2) 科目1,2は一つの科目に数える。

4) このデータの収集には檀国大日本語科の金銀珠助手の力を借りた。感謝の意を表する。

5) 日本語学と日本文学科中心で、「日本語通翻訳専攻」(1)もここに入れる。

6) 「日本地域学科」(1)もここに入れる。

7) 「日本語文化専攻」などを含む。

- 3) 科目名に「日本」の含まない<外国文化の理解><東アジア言語生活と文化>
<国際コミュニケーションと文化比較>などは除く。
- 4) <~文化探訪><~文化読み><~文化実習><~文化読解>のような科目は除く。
- 5) 日本学関連科目でも日本現地履修のは除く。

各系列に開設された科目名からして、いくつかの科目内容の領域を細分することができる。もちろん科目名だけでその科目の内容を性格に分けるのは難しいし、しかも複数の領域が複合されている科目名もあって厳格に分けることは困難な場合もあるが、大体において<文化、日本事情、歴史、芸術、日本学、社会、政治・経済・思想、韓日関係、その他>に分けて科目を分類してみた。

2.2. 系列別日本学関連科目

* () の科目は異なった領域が複合しているもの、 () の数字は出現度数。

(1) 日本語文学科系列(62個)

<文化>	日大衆文化/日本大衆文化(2)
日本文化史/日文化史(7)	日文化論/日本文化論(2)
日本文化の理解(6)	日本生活文化の理解(2)
日本の文化(4)	日本伝統文化論(2)
日本現代文化の理解(3)	日本文化研究(2)
日本大衆文化の理解(3)	日本と日本文化
日本伝統文化の理解(3)	日文化要論
日本人と日本文化	(近代日本の文学と文化)
日本大衆文化 맛보기	(日本古典文学と文化)
日本大衆文化探究	(日本文化と伝統文学)
日本大衆文化論	(日本文化と現代文学)
日本文化概論	(日本語と文化)
日本文化史講読	(日本語と日本文化)
日本文化史概論	(日本言語文化の理解)
日本文化セミナー	(日本の漢字と文化)
日本文化入門	
日本民俗文化	<日本事情>
日本現代文化特講	日本事情(15)
日本の茶道文化	日本の理解(5)
日本の文化と芸術	今日の日本
日本精神文化の理解	日本事情と文化
(日言語文化/日本言語文化)(2)	現代日本事情

現代日本の理解

日本地域事情

日本地域文化

日本地域研究

<歴史>

日本の歴史(9)

日本の歴史と文化(4)

日本の歴史と地理(3)

日本史(日本歴史)の理解(2)

日本史

日本史概説

日本史通論

日本史概論

<芸術>

アニメーションと日本文化

日本アニメーションの理解

日本映像文化の理解

日本映画文化鑑賞

日本映画の理解

日本映画の理解と鑑賞

日本芸術論

日本の舞台劇

日本の舞台芸術

日本の演劇と映画

日本伝統芸術の昨日の明日

日本伝統劇の理解

日ドラマ

<日本学>

日本学特講(8)

日本学入門(3)

日本学概論(2)

日本学の理解(2)

日本学演習(2)

日本の民俗と宗教(2)

日本学セミナー

日本,日本人論

現代日本論

現代日本研究

<社会>

日本社会と文化(4)

日社会論/日本社会論(4)

日本社会研究(3)

日本社会構造の理解

日本社会文化論

日本社会文化史

日本社会変遷史

日本現代社会の理解

現代日本社会と文化

日本人と日本社会

日本現代社会論

(日本文学と社会)

(日本語と社会)

(現代日本文学と社会)

<政治・経済・思想>

日本の政治と経済(4)

日本政治(3)

日本経済(論)(3)

日本思想(3)

日本経済の理解

日本経済と産業

日本の思想と文化

日本思想の理解

日本思想史

<韓日関係>

韓日関係(論)(5)

韓日関係史(3)

韓日比較文化(論)(3)

韓日文化の比較(2)

韓日比較文化概論

韓日比較社会論

韓日関係の理解

韓日多文化コミュニケーション

韓日文化コミュニケーション
(韓日文学と社会)

日本の文化産業
日本詩歌と美意識
日本語文化と女性
日本情報特講

<その他>

(2) 日本語教育科系列(4個)

<文化>
日本文化教育(論)(2)
日本文化(論)(2)
日本の文化背景
日文化活用指導論
日文化セミナー
日本文化の探索

日本事情

<社会>
日本社会論(2)
日本社会の理解
現代日本社会の理解

<歴史>
日本史(2)
日本史教育/日本歴史教育(2)

<日本学>
日本学特講(2)
日本学教育

<日本事情>

<韓日関係>
韓日関係論

(3) 観光日本語科系列(2個)

<文化>
日本文化の理解
(日本語文化)

現代日本事情
<社会>
日本社会の理解

<歴史>
日本歴史の理解
日本史

<韓日関係>
韓日交流史

<日本事情>
日本事情

<その他>
地域文化観光の理解
日本の観光と旅行文化

(4) 日本学科系列(13個) *2回以上出ている科目だけを提示

<文化>	日本研究特講(2)
日本文化論(3)	天皇制と日本人(論)(2)
日本大衆文化論(3)	
日本文化概観(2)	<社会>
日本文化の理解(2)	日本社会論(3)
日本人の生活と文化(2)	国際社会と日本(2)
日本伝統文化論(2)	現代日本社会論(2)
	現代日本社会の理解(2)
<歴史>	<政治・経済・思想>
日本近現代史(3)	日本政治論(6)
日本史(3)	日本経済論(4)
日本歴史の理解(3)	世界経済と日本(2)
	日本経営論(2)
<日本事情>	日本政治特講(2)
日本事情(3)	現代日本政治の理解(2)
日本の理解(3)	
<日本学>	<韓日関係>
日本学特講(6)	韓日関係論(4)
日本学セミナー(4)	韓日交流史(3)
日本学概論(3)	韓日比較文化論(2)
日本学入門(3)	韓日外交論(2)

(5) 日語日本学科/日語日本文化学科系列(10個) *2回以上出ている科目だけを提示

日本文化の理解(3)	日本学特講(2)
日本史(3)	韓日関係史(2)
日本事情(3)	韓日比較文化論(2)
日本学演習(2)	

まず (1) 日本語文学科系列 (2) 日本語教育科系列 (3) 観光日本語科系列のカリキュラムから見ると、とりわけ目立つのは日本語文学科系列の場合である。この系列に他と比べて対象となる学科数が56個で一番多いこともあるが、それにしても<日本文化>をはじめとして<政治・経済・思想>といった日本学関連科目の多様性に注目したい。学科名からして日本学を表明している (4)(5) において日本学関連科目が主となるのは当然であろう。しかし、2000年代に入って日本語文学科系列の学科が減る反面、代りに日本学関連学科が増えたことについては前述のとおりであるが、その日本語日本文学科の内部に

においても日本学関連科目が大幅に増えたことが見て取れるのである。

このように、それまで日本学研究の中心にあった日本語文学科系列において日本学関連科目が増えたことは、まず既存の日本文学関連の科目（中でもとくに古典文学）が減ったことに起因するところ多いと思われるが、その背景には学生たちのニーズ、つまり日本文化への関心の反映といった側面もあるのではないかと思う。実際、1999年に韓国日語日文学会で調査した4年制大学の日本語学習者の学習目的を順番に示すと、

- 1) 日本文化（芸術、文学、言語、歴史、生活）に関する知識の習得
- 2) 受験準備
- 3) 日本の政治、経済、社会に関する知識の習得
- 4) 日本への留学のために
- 5) 日本語によるコミュニケーションのために

となっていて、日本文化への関心をもっとも多かった。⁸⁾ また国際交流基金の2003年海外日本語教育機関調査結果による《韓国の日本語学習者のニーズ調査》を見ると（朴舜愛2005：117再引用）、

- 1) 日本の文化に関する知識を得るため
- 2) 日本の政治経済・社会に関する知識を得るため
- 3) 日本の科学技術に関する知識を得るため

のような実利的な項目が上位を占め、「日本語によるコミュニケーションができるようになるため」は10位であった。なお同基金の『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003年』⁹⁾の「日本語学習の目的」項には世界各国の高等機関の日本語学習者を対象としたアンケート調査結果を載せているが、ここでも「日本文化に関する知識を得たい」が1位で、「日本語を使ってコミュニケーションしたいという欲求」「日本語という言語そのものへの興味」よりも上位であった。

結果的に韓国の日本関連学科の学生たちは、日本を幅広く理解するためには語学だけでなく、日本文化をはじめとした日本学関連知識が必要であると認識しており、日本文化をより積極的に学ぼうとする傾向があることがわかる。これは日本という国を正しく、より客観的に把握するために望ましい方向だと思う。また、(日言語文化/日本語文化)(近代日本の文学と文化)(日本古典文学と文化)のように異なった領域が複合している科目がとくに日語日文学系列の学科に多い。これは既存の学科目に文化的な要素を取り入れたものであろう。このような一連の傾向は、語学や文学なども広い意味での日本学であるとの観点か

8) 韓国日語日文学会(1999)『韓国語 日本語教育実体』のアンケート調査引用。

9) これは国際交流基金において「2003年海外日本語教育機関調査」の調査結果をまとめたものである。(国際交流基金ホームページ(www.jpfi.go.jp)参照)

ら、学生たちのニーズを反映させようとした現れと解釈できると思う。

3. 専攻としての日本語と「日流」

以上見てきたように、1997年に学部制度が導入される以前は日語日文学科が主流であった。その後は漸次日本学系列の学科が増えるとともに、日本語・日文学科のカリキュラムにも日本文化、日本学関連の科目が多く取り入れられてきた過程がうかがえる。特に既存の日本語文学科系列の学科において日本語学や日文学の科目を日本の文化と関連づけて教えようとする意図を見て取ることができよう。そしてこのような広義の日本学という観点からの日本語教育の傾向は学科名にも反映され「日語日本学科/日語日本文化学科」のような学科ができたと思われる。その背景は1998年から日本文化が解放されてきたことと無関係ではないだろう。

韓国の青少年や大学生たちが日本文化へ強い関心を持っていてそれが大学で専攻として日本語を選択する一要因となったとするならば、それは日本における「韓流」の逆の立場に当たる、韓国における「日流」の一現象として認められるのではないかと思う。

そこで一つの試みとして、檀国大学の学生たちの対象に「日流」に関連しての以下のようなアンケート調査を行ってみた。

◀ 「日流」の認識に関するアンケート調査 ▶

* 調査対象：檀国大学 男子学生：22名 / 女子学生：95名、計 117名

1. 専攻として日本語を選んだ理由 (2択)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 就職の可能性 | 15/62 |
| (2) 周囲の勧誘 | 2/7 |
| (3) 日本語への親密感 | 12/64 |
| (4) 日本の文化や日本への関心 | 3/38 |
| (好きな日本のドラマや芸能人、スターがあって日本への関心が多いため) | |
| (5) その他 | 5/11 |

2. (4)を選んだ場合、具体的に好きなドラマやスターの名前を書きなさい。(○数字は頻度数)

- a. **タレント、芸能人、スター**：キムラタクヤ③、渡部アツロウ②、宮崎あおい②、タマキヒロシ、広末涼子、竹野内豊、蒼井優、オダギリジョー、沢尻エリカ、竹内結子、森山未来、妻夫木聡、豊川悦司、深田恭子など。
- b. **ドラマ・映画**：のだめカンタビレ④、冷静と熱情の間②、ごくせん②、大奥②、花より

男子、花ざかりの君たちへ、よい子のみかた、電車男、元カレ、野ブタのプロデュース、プロポーズ大作戦、デジモンシリーズ、Summer snow、Good Luck、アンティーク、木更津キャッツアイ、アテンションプリーズ、タイガ&ドラゴン、パパとムスメの7日間、もののけ、HERO、プライド、空から降る一億の星、愛してると言ってくれ、Long vacation、Love story、1リットルの涙など。

- c. 歌手：嵐⑥、赤西 仁②、SMAP②、山下智久②、Gackt②、堂本剛②、堂本光一②、SPEED、X-Japan、モーニング娘、倅田来未、ポルノグラフィティ、ORANGE RANGE、安室奈美恵、Wish、岡田准一、KinKiKids、LUNA SEA、GLAY、ゆず、松浦亜弥など。

3. 「日流」という言葉を聞いたことがあるか。

(1) ある 8/55
 (2) ない 13/40

4. 「日流」という言葉を聞いて連想される単語は。(2回以上のもの)

ドラマ・映画	3/32	芸能人、歌手	4/23	アニメ	3/19
ファッション	0/8	日本(大衆)文化	0/7	日本の歌	2/4
ジャニス	0/5	コスプレ	0/5	日ド(일드; 日本のドラマの略)	1/3
オタク	1/3	ゲーム	0/3	日本の小説	0/2
寿司	0/2	アイドル	0/2	J-PoP	1/1

5. 「日流」が韓国において一つの社会的現象として存在しているかどうかについての意見。
 存在すると答えた学生が存在しないと答えた学生より圧倒的に多い。

以上の5項目からなるアンケートから、より広範囲の、細かな分析までは至らなかったとしても、ある程度、「韓流」と「日流」の違い、韓国における「日流」の実態、学生たちの「日流」に対する認識などを把握することができた。その内容をまとめると、

- (1) 「日流」は若者、とくに10、20代を中心に限定的に流行する現象。「韓流」は中高年の女性たちが中心に流行。
- (2) 「韓流」は少人数の特定のスターに依存するところが多いが、「日流」はより対象の幅が広く、ジャンルも多様である。これは「韓流」は短期間でブームが起こり、「日流」は長い間韓国文化の中に浸透していることと関係がある。
- (3) 「日流」が韓国における社会現象の一つとして表に出ないのには反日感情もある。以前は日本が好きだと公に表現することはできなかったが、今はそれが可能な韓国社会となった。

要するに、日本における「韓流」と比べて韓国における「日流」は、その歴史、対象、マニア層、社会的な影響、勢いなどに差がある。「韓流」に比べて勢いの弱い面はあるものの確かに存在するとの認識である。まだ韓国の学生たちには「日流」という言葉よりは「日本文化への関心」「韓国の中に入ってきている日本文化」の方が分かりやすいということでもあった。しかしその「日本文化への関心」というのが、「韓流」の場合のように、特定のドラマやスターに起因するところがあるとすれば、それはまた「日流」の一現象と見做しうるものと思われる。実際、上のアンケートの1の(4)を選んだ学生たちの中には「日流」を認識しているものが多かった。そして最近、その「日流」たるものが韓国の社会において大衆化していく傾向にあることもまた事実である。

まとめ

2002年に行われた韓日共同ワールドカップから2003年にかけて、それまでの傾向とは打って違って、東京のある外国語専門学校の韓国語科に新入生が飛躍的に増えたということを知ったことがある。そしてそのほとんどの学生から韓国語科を選んだ理由として「韓流」スターの誰々が好きだからという答えが返ってきたそうである。2003年は日本で「韓流」ブームが旋風を巻き起こしていた年でもある。まさに日本における「韓流」ブームの一端を示す例と思われる。では韓国における「日流」はどうであろうか。その観点から、韓国の大学における日本学関連科目の実体と、一部の学生たちの意識調査を試みた。結果的に韓国における「日流」は、社会的な一現象として目立って表出はしていないものの、日本における「韓流」とはまた違った形で韓国の社会に影響を及ぼしているものと思われる。このごろの一般のメディアからも、最近はオンライン、オフラインに関わりなくその勢いは増してきて、放送や芸能、文学の分野を超え、ファッション、食生活などにおいても日流ブームが起きているという指摘が増えている。まさに新日流時代と渡来という感じである。

【参考文献】

- 朴舜愛(2005)「韓国における日本関連学科とカリキュラム」『日本語文学』30、pp.107-124、日本語文学会
 李炳魯(2003)「한국에서의 일본학연구의 현황과 전망」『経営経済』36-1、pp.343-364、啓明大学校産業経営研究所
 韓国日語日文学会(1999)『韓国の日本語教育 実体』
 国際交流基金(2003)『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査』

要 旨

2007年現在、国・公立大学46校、私立大学178校の総224校(サイバー大学16校は除く)のうち、インターネット上で検索可能な、90校91個の日本語関連学科のカリキュラムを調べて、各学科においてどのような日本学の関連科目が教えられているかを調査・分析してその特徴と背景たるものを「日流」と結びつけて考えてみた。その結果、韓国の日本関連学科の学生たちは、日本を幅広く理解するためには語学だけでなく、日本文化をはじめとした日本学関連知識が必要であると認識しており、日本文化をより積極的に学ぼうとする傾向があることがわかる。そしてこのような一連の傾向は、語学や文学なども広い意味での日本学であるとの観点から、学生たちのニーズを反映させようとした現れと解釈できると思う。また、この韓国における「日流」という観点から、一部の学生たちの意識調査を試みた。結果的に韓国における「日流」は、社会的な一現象として目立って表出はしていないものの、日本における「韓流」とはまた違った形で韓国の社会に影響を及ぼしているものと思われる。このごろの一般のメディアからも、最近はオンライン、オフラインに関わりなくその勢いは増してきて、放送や芸能、文学の分野を超え、ファッション、食生活などにおいても日流ブームが起きているという指摘が増えている。まさに新日流時代と渡来という感じである。

キーワード：韓流、日流、日本文化、日本学関連科目、新日流時代

住 所：(330-070) 충남 천안시 원성동 461-25
電 話：(041)563-1412
e-mail：mjpyon@dku.edu